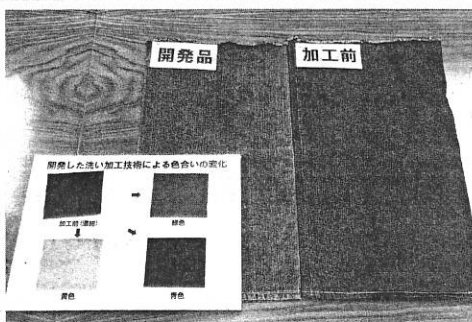


洗い加工業大手の豊和(岡山倉敷市)は岡山県工業技術センター(岡山)と共同で、デニムの色合いを変化させる新しい洗い加工技術を開発した。

2016年に同センターへデニムを持ち込んだことから研究が始まった。新技術は洗い加工で使われる酸化剤の次亜塩素酸ナトリウムに化学物質を混ぜた特殊な薬剤を使用することで、インディゴの色合いを変化させるというもので、インディゴの粉で実験をしていたが、その色をデニム上で再現するのが難しかった(岡山県工業技術センター)応用技術部食品・繊維科の國藤勝士専門研究員が、鮮やかな青、黄、緑色の3色を安定的に発色させることができたという。

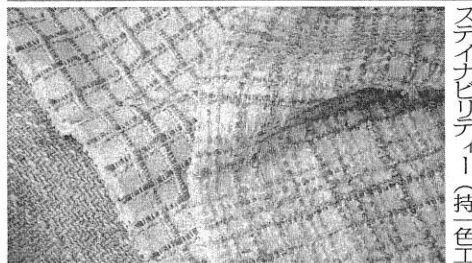


開発品 加工前

特殊な薬剤を使うことで黄、緑色、鮮やかな青に発色

た際にデニムが赤茶色に染まる現象が発生。本来は不良品となるが、この色の変化に着目し、新しい加工に挑戦する。

2016年に同センターへデニムを持ち込んだことから研究が始まった。新技術は洗い加工で使われる酸化剤の次亜塩素酸ナトリウムに化学物質を混ぜた特殊な薬剤を使用することで、インディゴの色合いを変化させるというもので、インディゴの粉で実験をしていたが、その色をデニム上で再現するのが難しかった(岡山県工業技術センター)応用技術部食品・繊維科の國藤勝士専門研究員が、鮮やかな青、黄、緑色の3色を安定的に発色させることができたという。



無染色のファンシーツイード

染工場の数が減ってきた

無染色で環境に配慮

アップサイクルの商品も

婦人服地製造の渡六毛(岐阜県羽島市)は、サステイナビリティー(持続性)をうたった生地を打ち出している。染色工程を省いた「アップサイクル」の商品も

染工場の数が減ってきた

日本カーペット工業組合のまとめによると、2019年1月のタフテッドカーペット生産(速報値)は、前年同月比5・8%減の368万平方

インテリア織物企画プロダクト

株式会社 松坂

〒443-8625 蒲郡市栄町6番11号
TEL 0533-68-7227 FAX 0533-68-7220

2019年1月タフテッドカーペット生産

	ロール	タイル	帖物・ラグ	折タタミ	車両用	
					ライン	オプション
紡績系	40		7			
毛						
ナイロン						
アクリル	4		23	18		
ポリエステル			38	320		
綿			5			
その他				1		
小計	44		73	339		
ナイロン	136	1,163	47		208	96
ポリエステル	7	2	38		75	
ポリプロピレン	37	939	59	8		151
その他					1	
小計	180	2,104	144	8	284	247
合計	224	2,104	217	347	284	247
前年同月比	88.9	97.6	81.6	94.8	90.7	87.9

を除く全用途で前年同月(糸)を4・4%増、ポリプロピレン長繊維(7・1%増)が伸びた。

明日へ

これが我が社の生きる道
..... 染色加工編



松本社長

山陽染工(広島県福山市)は、綿布の擦染工場として1925年に創業した、90年以上の歴史を持つ染色加工工場だ。原反から晒し、無地染め、プリント、仕上げ加工まで一貫して生産できる国内有数の生産体制を持つ。

同社が得意とするのが抜染。抜染は布地から白一色で色を抜き、柄を出す技術で、大正時代に同社が国内で初めて機械化を実現した。2014年にはその技術を進化させた「段落ち抜染」を確立。部分的に色の抜け具合を変えることで濃淡を表現する独自の技術で、引き合いが増えてきている。

独自の加工技術の確立とともに、13年から取り組んでいる。2016年に同センターへデニムを持ち込んだことから研究が始まった。新技術は洗い加工で使われる酸化剤の次亜塩素酸ナトリウムに化学物質を混ぜた特殊な薬剤を使用することで、インディゴの色合いを変化させるというもので、インディゴの粉で実験をしていたが、その色をデニム上で再現するのが難しかった(岡山県工業技術センター)応用技術部食品・繊維科の國藤勝士専門研究員が、鮮やかな青、黄、緑色の3色を安定的に発色させることができたという。

工場、岡山県倉敷市)のグループ3社の連携による開発も加速。児島ファクトリーが得意とする硫化中白染め「ダスター加工」と段落ち抜染を掛け合わせた「硫化染め段落ち抜染」を開発するなど、技術を組み合わせることで、他社に

業界の常識にとらわれず挑戦

ねのできない加工開発を進めている。さまざま連携を通じて、インターネットでの情報発信も17年から強化。クラウドファンディングで、段落ち抜染のデニムスニーカーやスリッポンを発売する

今年2月にはイタリア・ミラノで開催されたテキスタイル展示会「ミラノ・ウニカ20春夏」にも出展。同社としては初の海外展だった。今後1〜2年は海外販路開拓への仕組みづくりを模索する。



備後緋(かすり)をモチーフにした柄

社名：山陽染工株式会社
本社：広島県福山市一文字町6-1
代表者：松本 壮一郎
主要設備：連続式精練漂白機3セット、連続式染色機2セット、液流染色機4台、無地染め染色機2台、ロータリー擦染機1台、樹脂加工機3台、ヒートセット機1台、ジッカー染色機2台、防縮機3台、起毛機4台など。月産能力200万円(染色150万円、晒し50万円)
従業員：91人

松本社長は「業界の常識にとらわれず、新しいことにもどんどん挑戦していく」と今後の抱負を語る。(毎週金曜日に掲載)